

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第32週（8月8日～8月14日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに減少」

第32週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,222例であり、前週比36.8%減であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.51、1.38、0.59、0.22、0.20である。

RSウイルス感染症は前週比41%減の688例で、南河内5.81、泉州5.58、大阪市南部5.00、堺市4.74、北河内4.52であった。

感染性胃腸炎は38%減の271例で、南河内2.25、中河内2.10、堺市2.05である。

手足口病は11%減の115例で、南河内1.13、大阪市北部1.00、大阪市西部0.80であった。

ヘルパンギーナは2%減の43例で、大阪市北部0.71、大阪市西部0.70、中河内0.30である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%減の39例で、大阪市南部0.50、中河内0.45、南河内0.31であった。

今週、インフルエンザが府内で7例報告があった。

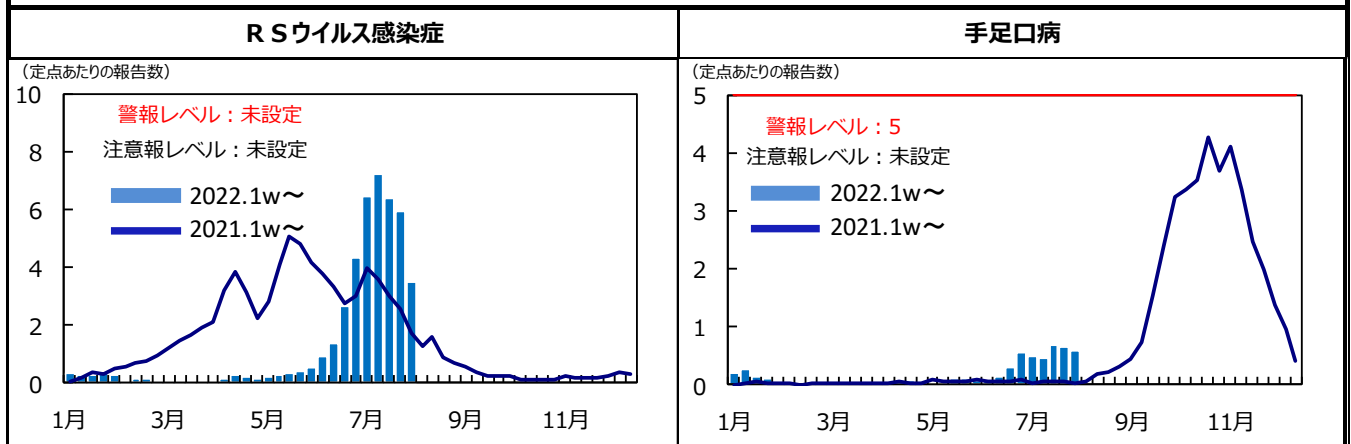


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第32週8月8日～8月14日）

第32週の順位	第31週の順位	感染症	2022年 第32週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第32週の 定点あたり 報告数	2022年第32週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	3.51	41%減	1.73	1歳_33%
2	2	感染性胃腸炎	1.38	38%減	1.41	1歳_21%
3	3	手足口病	0.59	11%減	0.04	1歳_49%
4	6	ヘルパンギーナ	0.22	2%減	0.04	1歳_42%
5	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.20	19%減	0.20	20歳以上_18%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第32週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

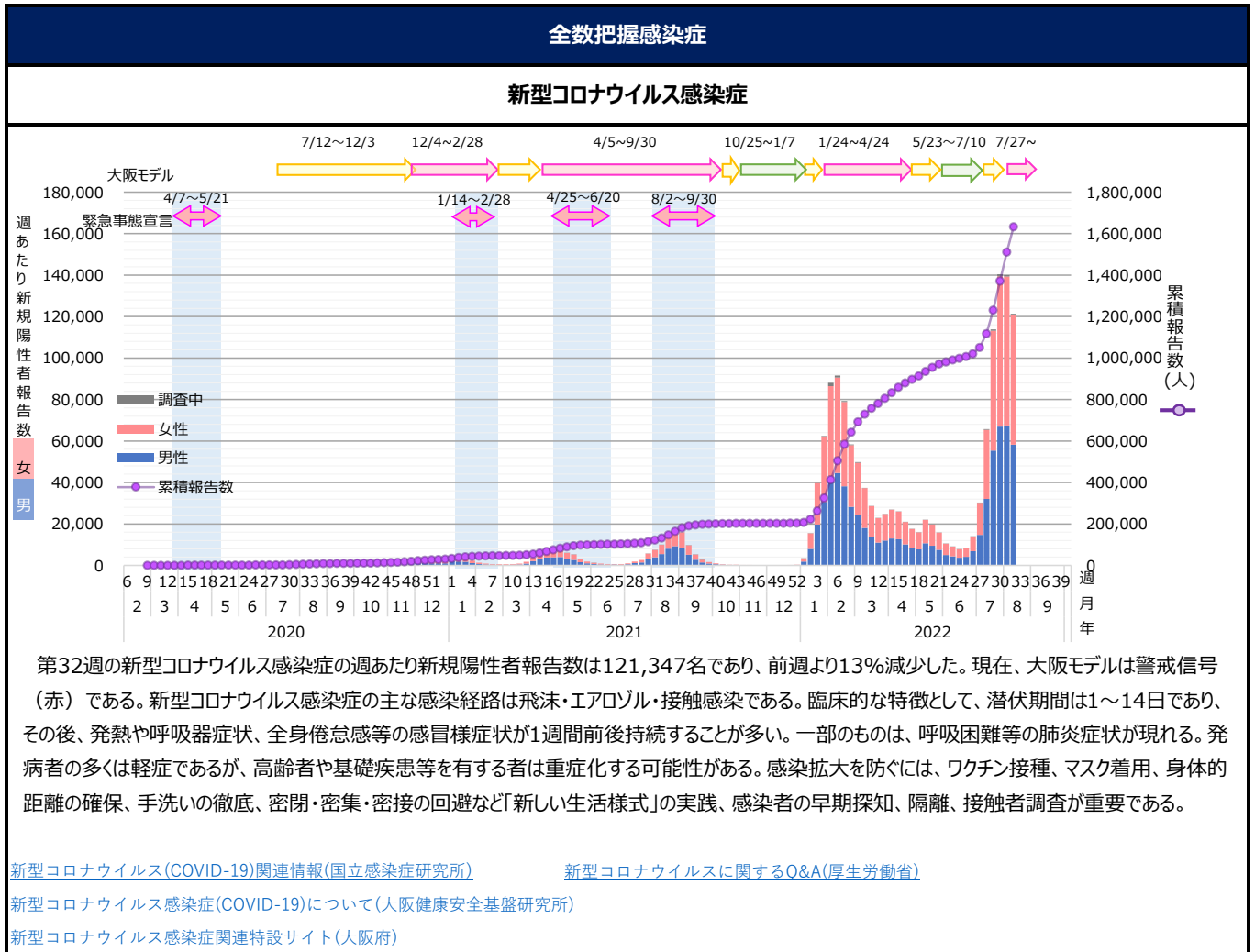


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第32週8月8日～8月14日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3			1					2	93
4 類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	4		1	1	1				1	61
	レジオネラ症（ボンティアック熱型）	1							1		
5 類感染症	アメーバ赤痢	1								1	28
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1								1	73
	後天性免疫不全症候群	2								2	61
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2							1	1	8
	梅毒	15	1	2						12	968
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	121,347	2020年1月以降累計 1,632,465								
結核 (2022年6月分)	結核 新登録患者数：81名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 528名、内 肺・喀痰塗抹陽性 194名)									

(2022年8月16日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。